

## 事例 11 三世代交流の地域づくり

市町・公民館等	足利市 梁田公民館
事業	親子ちゃれんじ倶楽部

### 1 事業を始めたきっかけ

足利市梁田地区は、アパートや住宅が新築されるといった市街化が進む地域と市街化調整区域で昔ながらの農村地域の二極化が著しい。近年においては、若い世代の転入が多く、足利市全体でも65才以上の人口率が一番低い（23.57% H29.10.1 現在）という特徴がある。核家族世帯が多い地域と若い世代の転出が増加している農村地域の交流が失われつつあるため、この状況を改善することが事業を始めるきっかけとなる。

### 2 活動内容

古くからの住民と新しい住民が入り交じっている地域のため、事業を通じて両者間の垣根を取り払うことで、隣人の顔が分かり、安心して子育てができる地域、社会で子どもを育てることができる地域を実現させることを目的とした。事業のねらいは、高齢者や子育て中の親、子どもといった異世代間が、野外活動や体験活動などを通じて、相互理解と連携を深め、明るくふれあいのある地域づくり、家庭づくりを目指すものである。

毎年度実施している事業で、年間8～10回の講座を組んでいる。各回は、独立してその都度参加者を募集して実施している。内容は、小学校に通う児童とその親を対象とした料理教室や工作教室、高齢者学級（梁田寿大学）参加者と保育所児童との交流を目的とした花植えやしめ縄づくり、高齢者学級（梁田寿大学）参加者と児童館利用親子との交流を目的とした昔遊びなどから成る。

小学校児童とその親を対象とする事業については、チャレンジ梁田（旧名称：梁田小学校週5日制事業）運営委員会と共同開催とし、公民館が講座講師を選定、小学校が参加者を募る形で役割を分担している。保育所との交流事業については、高齢者学級（梁田寿大学）参加者に講師を依頼して実施している。児童館との交流事業については、高齢者学級（梁田寿大学）参加者に講師を依頼することもあれば、公民館が講師の選定・依頼、参加者のとりまとめをすることもある。

### 3 成果と課題

#### ○成果

自主的に地域住民同士のつながりを深めていこうとする姿が見られるようになった。具体的には、地域住民の高齢者が小学校の通学路に立って、児童の登下校を見守るボランティア活動が始まった。また、小学校が高齢者を運動会や文化祭に招待するなど、地域としての一体感が強まってきている。

一つ一つの講座の組み立てに際して、複数組織が関係してくる性質上、公民館を中として連絡体制を作る必要があ



高齢者学級（梁田寿学級）参加者と保育所児童との花植

り、公民館から積極的に各組織に働きかけることで、自然に情報が集約でき、その後、共有を図るという流れを作ることができた。

#### ○課題

自主的に地域のつながりを求める姿勢や風潮が全地区的に広まることを期待していたが、公民館利用者を中心とした限定的な範囲にとどまっている。



親子料理教室

#### 4 その他

##### ○今後の活動

育成会やPTA、保育所父母の会、老人クラブ等が取り組んでいる独自の活動のいくつかを、公民館との共同実施という形を取って本事業に組み込み、公民館を中心としたネットワークを基礎にして、それぞれの団体を結んでいきたい。その結びつきが強化されることで、現段階で関わりの希薄な若い世代の参加者が増えたり、関わりが強まったりして、本事業のねらいに迫れると期待できる。



親子料理教室

(調査協力：足利市梁田公民館 主任 和田圭祐)